

対話を通して 浜岡原発と向き合う

— 意見交換会 —

福島原発事故後の現状やエネルギー問題など多くの意見や考え方に触れ、さまざまな立場の人が相互に理解を深めてもらうよう「牧之原市のくらしとエネルギーを考える」意見交換会を開催しています。

意見交換会には、PAZ圏内の住民の方々を中心に中部電力株式会社の社員の皆さんも加わり、約50人の方々が参加しています。

9月9日に第1回目を史料館で開催し、11月までに4回の意見交換会を開催。日誌、幸静岡大学教授がアドバイザーを務め、この会の進行は、市民ファシリテーターが担っています。

これまでの意見交換会の内容は次のとおりです。

第1回

第1回目の意見交換会では、まず西原市長の「浜岡原

発の立地の経緯」などを聞いた上で、原発などについて日ごろ思っていることを話し合い、グループごとに発表しました。

参加者全員で投票した結果、「次世代へつなぐエネルギーを考えよう」、「原子力以外の電源のメリットとデメリット」、「原発廃止できるかどうか」という意見に多くの票が集まりました。

第2回

第2回目の意見交換会は、9月27日「いづら」で、福島県南相馬市の榎井勝延市長から「原子力災害や現地での生

活」などをテーマとした講演を聞いた後に、感じたことなどを話し合い、グループごとに意見をまとめ発表しました。

発表では、「被災地の話を若い世代に聞かせたい」、「どんなエネルギーも安定供給が



第1回目意見交換会での投票を行う様子



第2回目意見交換会での発表を行う様子

重要」、「再生可能エネルギーやその他エネルギーについてもっと知りたい」などの意見が出されました。

第3回

第3回目は10月24日「史料

います。

情報提供②「エネルギー事情と電源構成」

資源には限りがあります。現在の技術で現在と同様に使用すると、埋蔵が確認されている石油は53年。石炭が一番長くて110年。原子力の燃料となつているウランもあと99年でなくなってしまうと言われていています。

また、日本のエネルギー資源は6%しかなく、先進国34カ国中33位です。乱暴な言い方をすれば、100日のうち6日間しか電気をつけられないという状況です。このこと

が日本で原子力を使う大きな理由です。

日本では現在、原子力がほとんど停止しており、石炭や天然ガス、石油などを燃料とする火力発電で、電力の80%以上を賄っています。

比較に出されるドイツでは、40%以上が石炭を電源とする発電であり、15%以上は原子力で賄われています。

また、ヨーロッパは、各国が網の目のように送電線で結ばれていますが、島国の日本では、このようなことができないため、独立した電源を持たなければなりません。

そして、地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出量をどう減らしていくのか大きな課題となっております。そこで、今再生可能エネルギーに期待がされています。

ただ太陽光発電は、曇りや雨の日には発電量が少なくなり、風力も適度な風が必要で、再生可能エネルギーを補うため、常に火力発電を準備しておくことが必要です。再生可能エネルギー



エネルギー事情と政策について説明する秋庭悦子氏

ギーにより発電された電力を、できるだけ高く買い取ることで、このエネルギーを増やしていこうと進められています。

買い取るお金は、私たちの電気料金で負担しています。当初、一家庭当たりの月額は60円でしたが、現在では675円となっております。再生可能エネルギーを増やせば、それだけ私たちの負担も増えるということです。

情報提供③「エネルギー政策の考え方」

日本のエネルギー政策は、S（安全性）+3E（安定供給・経済効率・環境適性）を目指しています。

しかしながら、安全性を大前提に、この3Eを満足できるような電源は、一つもありません。

さまざまな電源をいかに組み合わせ、S+3Eに取り組んでいくかが今求められています。

電気料金や石油の輸入額は上昇しており、二酸化炭素の排出量も増えている状況です。



第3回目意見交換会での話し合いを行う様子

国のエネルギー基本計画における2030年時点での再生可能エネルギー比率は22%から24%、原子力比率はできる限り低減していくということになっていきますが、その割合は20%から22%と考えられています。

皆さんに伝えたいこと

私が皆さんに伝えたいことは、何もしないで想像するよりも、自分の目で確かめ、耳で聞いて情報を集め、その中から選択し、自分で考えるということが一番大事なことです。このことを、ぜひ皆さんに

これからのこと

11月14日には、第4回の意見交換会が開催されます。詳細については、ホームページなどでお知らせしていく予定です。

市民の方々と電力会社の皆さんがひとつのテーブルに着く、このような場合は今回が初めてであり、そして意義あることです。

この意見交換会で、「今後の浜岡原発について」の結論を出すものでも、出せるものでもありません。ただ今後について、また将来に向かって、私たちは「牧之原市のくらし」の中で浜岡原発とどう向き合っていくのかをもっと学んでいくことが必要であり、こうしたプロセスが大切であると感じます。